Annual Report

事業報告書

2022

来島会
KURUSHIMA-KAI

社会福祉法人来島会

ごあいさつ

私たち来島会は「すべての人が「障害」を感じることなく、自分の意思で質高く暮らすことのできる地域社会の実現」を目指し、地域福祉の向上に邁進しております。ここで言うところの「障害」は、身体障がい、知的障がい、精神障がいと法的に線引きされたものを指しているわけではありません。世の中を生きるすべての人が自身の人生を自分らしく生活していくなかで起こる困難、障壁、これらを「障害」と呼んでいます。

私たちが法人を設立した平成5年当時と比較して、障がいのある方、高齢で介護が必要な方のための法制度に定められた施設は圧倒的に充足されています。その一方で、社会のつながりが希薄化し、伝統的な地域コミュニティがその機能を弱体化するなかで、制度の狭間で孤独のなか、困難を抱えている方が増えています。

私たちは長く障がい支援を事業として行うなかで、「健常者」と「障がい者」など、わかりやすい違いによって区別をし、それが差別や排斥につながってしまうことを数多く見てきました。これは障がいに限らず、様々な違いによって起こっていることだと考えています。

このような違いによる区別をなくし、一人ひとりが違いをもつ個人として、互いを尊重し、認めあえるコミュニティを創造することができれば、あらゆる人にとって豊かで幸せな社会を実現することができると信じています。私たちはこれをインクルーシブな地域社会と呼び、この実現に向け、数多くの取り組みを行っています。

しかしながら、この実現は私たちだけでできることではありません。地域をあげて、あるいは地域を超えて、想いを同じくする皆様の参画によって一緒に実現していくことができると信じています。多くの皆様のご支援、ご共感に支えられ、2022年度も本誌に代表されるような取り組みを行い、インクルーシブな地域社会へ着実に歩みを進めることができました。2023年度においてもこの取り組みをより一層進めてまいります。

私の大好きな作家である宮沢賢治の著作『生徒諸君に寄せる』にこのような一遍があります。「衝動のやうにさへ行はれるすべての農業労働を冷たく透明な解析によってその藍いろの影といっしょに舞踏の範囲に高めよ」。私はこの一遍が私たちの行う福祉を指しているように思えてなりません。つまり、「目的を意識せず、ただ漫然と行われる福祉活動を、冷静で理知的な態度によって、その本質を背景に、芸術の域に高めたい」と。

今後とも引き続きのご支援、ご協力のほど、心よりお願い申し上げます。

社会福祉法人来島会
理事長　越智 清仁

Annual Report 2022

CONTENTS

ごあいさつ …… 02

インクルーシブな
地域社会に向けた取り組み …… 04-05

事業トピックス
- 利用される方々のくらしや活躍の場の創出 …… 06-07
- 職員教育・人材育成 …… 08
- 情報発信やまわりへのはたらきかけ／地域との関わり …… 09

数字でみる来島会 …… 10-11

決算報告 …… 12

これからの来島会 …… 13

事業所一覧 …… 14-15

インクルーシブな地域社会に向けた取り組み

01 障がい当事者のご家族、支援をしている方へのサポート活動

障がい当事者のご家族、その支援を行っている方へのサポートとして、様々な講演会、ワークショップを企画し、実施。皆様、必ずしもすべての福祉制度を把握していたり、支援技術を持っていたりするわけではありません。私たちの知識やノウハウをお伝えすることによって、障がいの有無にかかわらず、自分らしい豊かな暮らしをしていただく基盤づくりを行いたいと考えています。

2022年度は計6回を開催、延べ116名の方にご参加いただき、支援の仕組みやノウハウなどを知っていただく機会を実現しました。

11/12 講演会 「ライフステージをつなぐ障がい支援 ～子どもの幸せな未来のためにどんな支援ができるのか～」

11/28 セミナー 「障がいのある方の自立した豊かな生活に向けた支援体制の確立に向けて」

※愛媛県立今治特別支援学校教職員様向けに開催。

2/11 ワークショップ 「朝をスッキリ。親子で一日爽快気分!」

3/31 トークセッション 「みんなでつくるインクルーシブな地域社会」

講演会に参加して･･･

正直将来に対して不安しかなかったのですが、実際に成人して社会人として生活している方のお話を聞けたこと、受けられる福祉サポートがわかったこと等、具体的な例を見て、何とかなるかも！と思えました。

セミナーに参加して･･･

普段から保護者と話すなかで「十分な知識が無いのに話している…このままで良いのかな」と感じていましたが、その不安に答えてくれる内容の研修でした。とても分かりやすく説明していただき、勉強になりました。

02 施設を利用される方の生活環境の向上

来島会の施設をご利用いただく皆様の生活環境向上を目的に、施設の様々な修繕改修事業を進めています。

私たちは設立以来30年、地域の福祉ニーズにお応えしながら多様な福祉施設の開設を行い、現在は、愛媛県今治市と高知県南国市に合計21施設を運営しております。老朽化した箇所の修繕や、設備等の入れ替え、より豊かな暮らしをしていただくための改修などを行い、利用いただく皆様に安心、安全にくらしていただいております。

2022年度行ったおもな修繕・改修

- 障害者支援施設「今治福祉園」　空調設備改修
- 生活介護事業所「ふらっぷ」　雨漏り修繕
- 就労継続支援A型事業所「ステップ」　農園作業場所ハウスビニル張替え
- 地域密着型特別養護老人ホーム「かのこ」　介護浴槽修繕
- 共同生活援助「かるむ」　錠前交換・床張り替え工事
- 放課後等デイサービス「なかよし学童くらぶ」　給水設備修繕

03 地元企業との連携

インクルーシブな地域社会の実現のためには、私たちの取り組みだけでは不十分と、地元企業との様々な連携を進めています。

おもな連携事例

来島会への業務委託の開発や障がい者雇用の促進

- **今治の伝統銘菓ラムリンの生産に貢献**
  株式会社アリスタ・木曽および株式会社いと・をかしと協業し、今治の伝統銘菓ラムリンの包装作業を受託。受託作業から、得意を活かして活躍いただける障がい者雇用も実現しました。

- **今治を代表する特産品今治タオルの生産に貢献**
  株式会社藤高と協業し、高齢化などにより人手不足となっていたタオルの検品作業を受託。今治を代表する特産品今治タオルの生産で、障がいのある方が活躍する仕組みを構築しました。

企業の新規事業立上げに協業しての仕組みの確立

- **せとうちシルクファクトリーの立ち上げ**
  ユナイテッドシルク株式会社と協業。来島会の敷地内に新工場せとうちシルクファクトリーを開設いただき、シルク産業の高度化に障がいのある方が中心となって貢献する仕組みを構築しました。

- **合同会社シーベジタブルと協業し、シーベジタブル今治工場の運営業務を受託**
  スジアオノリの先進的な陸上養殖事業を障がいのある方が行うスキームを構築し、全国の食卓を支える仕組みを確立しました。

連携をきっかけにいただいたたくさんのご支援

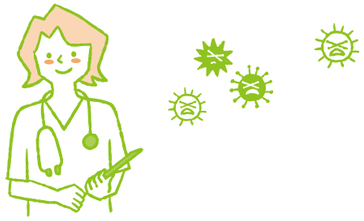
- **法人/団体の皆様からのご寄付**
  私たちの取り組みに共感いただき、お取引先をはじめたくさんの法人、団体の皆様からご支援をいただくことができました。

応援メッセージ

私の会社が、来島会をはじめ地域の方々に支えられているように、相互に協力しあう関係性がもっと社会に生まれれば。障がいの有無に関わらず、みんなで共生していくことをめざす来島会の取り組みによって、同じ想いを持つ人が増え、より良い社会になってくれることを期待しています。

コマ電設株式会社
代表取締役社長
小松正義 様

04 新型コロナウイルス感染症とのたたかい



2019年年末より世界各地で猛威をふるってきた新型コロナウイルス感染症。私たち来島会も障がいのある方、高齢の方の福祉施設として、感染拡大の防止を最大限に配慮しながら、同時に利用いただく皆様はじめご家族の皆様の生活の質の向上に努めてきました。

2022年度は第6波の爆発的な感染拡大のなか、家族が感染し濃厚接触者となる職員が急増、非常に厳しい職員体制でありましたが、現場力によりサービス提供を維持してきました。

障害者支援施設「南海学園」内での施設内感染発生時は、高知県内唯一の感染症内科の医師に協力いただき、現地調査、指導を受けながら、ゾーニングやスタンダードプリコーションなど、早期収束に向け、昼夜問わず職員一丸となって尽力しました。

各施設の看護職員が連携し、看護職部会を結成。各施設に対し、ガウンテクニックの指導、新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえた注意喚起など施設を横断し、専門性を活かした連携を発揮しました。

入所施設での施設内感染発生時には、複数施設を運営する法人の強みを活かし、他施設の職員が応援を実施。全施設において影響を最小限に食い止めながら、地域の福祉環境の維持に努めました。

利用される方々のくらしや活躍の場の創出

私たちが目指すのは、誰もが自分らしくくらすことのできる社会。障がいの有無にかかわらず地域の様々な場所で活躍していくことのできる機会を創出しています。

個性あふれる作品を美術館に展示!

今治市大三島にある「大三島美術館」で、ご利用者様のアート作品を展示していただきました。来島会で開催したご利用者様の作品展「くるしまアール・ブリュット展」で展覧した作品など20点以上を展示し、美術館へ訪れた方々に作品をご覧いただくことができました。

「アール・ブリュット」とは?

伝統的な美術とは異なり、加工されていない生の芸術、伝統や流行、教育などに左右されず表現者自身の内側から湧きあがる衝動のままに表現した芸術作品のこと。

来島会では、ご利用者様の自己表現のひとつとしてアート活動を行うとともに、作品展を企画開催する等、障がい者アートの発信にも力を入れています。

商品の準備・運搬もご自身で。
施設から徒歩5分の道のりを
歩いて向かいます。

施設を飛びだして! 就労生産品の納品業務。

今治東門郵便局が提供するハンドメイドアクセサリーなどの販売スペースで、多機能型事業所「ふきあげワークス」で製作した作業用手袋を販売しており、その納品業務もご利用者様が担っています。

この手袋、「色合いが可愛いし、使いやすい」と地域の方々から好評で、リピーターも多い商品です。一連の流れを見守っていただいている郵便局員の方からは「がんばっている方を見ると励みになるし、応援したくなる。これからも地域ぐるみで見守り・支援していきたい」と期待いただいています。

日常の小さなことが、地域とつながっている。

共同生活援助事業所「カラコリーナ」(以下、グループホーム)で生活されるご利用者様が楽しみにしている買い物。グループホームから徒歩3分程の場所にあるスーパーマーケットへ、ご自身の好きなお菓子やシャンプーなどの日用品を買いに出かけています。買い物へ出かける毎週水曜日は、いつも楽しみにしている週刊誌の発売日ということもあり、皆様は軽い足取りでスーパーマーケットへ。取り置きしてくれていた店員の方へ「いつもありがとうございます」と会話を楽しみながら週刊誌を受け取るのが、毎回の恒例です。地域社会との関わりをもてるよう、積極的に機会を創出しています。

店員の方から「いつものご用意していますよ」と週刊誌を受け取るご利用者様。
「お店の方が、自分の名前を覚えてくれていて嬉しい。また次の買い物が楽しみ」と、笑顔を見せていました。

グループホームではたらく世話人と確認しながら、日用品を選びます。

施設外就労で作業する様子
(今治銘菓「ラムリン」の製造工場にて)。

ご利用者様との定期的な面談をとおし、スモールステップを踏みながら一般企業への就職に向けサポートしています。

ご利用者様の可能性を広げる!将来の道を切り開く就労移行支援事業。

一般企業へ就職することを希望される方へ、はたらくために必要なスキルのトレーニングを行う、多機能型事業所ステップ。ご利用者様がご自身の将来への選択肢を広げられるよう、多方面から支援しています。

選択肢を広げるための施策の一つに、地元企業の皆様との連携があります。企業から請け負った仕事を現場などその企業のなかで行う「施設外就労」では、施設でトレーニング・作業するだけではわからない、ご本人の好きなことや得意なことなどの新たな発見、また、ご本人の新たな課題が見つかることも。結果、それがご利用者様への将来への選択肢を広げ「はたらく」ことの意識を向上していただくきっかけとなっています。

地元の海を綺麗にしながら、地域交流も。

世界中で問題となっている海洋ごみを集め、海岸を綺麗にする活動を定期的に行っています。施設ご利用者様をはじめ、市内企業の方々や地域住民の方々も毎回多数参加いただき、インクルーシブな交流を生む場所にもなっています。

集めたごみやシーグラス(ガラスごみ)を、素敵なアート作品に生まれ変わらせる活動「サスティナートプロジェクト」も行っています。

施設内の庭園で育てた花などを使ってアレンジメントを作っています。

緊張がほぐれ
にっこり!

施設へようこそ!手作りアレンジメントでお出迎え。

新規に施設へ入居される方を歓迎しようと、地域密着型特別養護老人ホーム「かのこ」「ほのか」両施設では、ご入居者様が中心となり、手作りのフラワーアレンジメントを制作、プレゼントしています。

玄関でお迎えし「ようこそ!」と完成したアレンジメントを手渡すと、新規ご入居者様は緊張がほぐれ思わず笑顔に。その後ユニットでは、ご入居者様が「これは私が作ったんよ」と積極的に話しかけ、入居されてきた方を囲んで賑やかに会話を楽しまれている様子も。ご入居者様同士のコミュニケーションを促す一つのきっかけや、ご自身の行動で誰かを笑顔にすることに喜びを感じられる取り組みとなっています。

職員教育・人材育成

みらいの来島会はどうなっている?
みらいを見つめた真剣なディスカッション。

来島会の掲げるビジョン・ミッションを達成するために、これから何をしていくべきなのか…。あらためて来島会のビジョン・ミッションを丁寧に見つめ直し、今後の戦略・計画策定のベースとなる言葉を紡ぐセッション「来島会・みらい会議」を実施しました。

「2030年の来島会や地域、世界はどうなっている?」を想像し、来島会が今からできることを創造していきました。

ワーキングチーム発足!組織の見つめなおし。

「来島会・みらい会議」に参加した職員から少人数の派生チーム「ワーキングチーム」を結成。ビジョン・ミッションの達成に向け今からアクションすべきことを提案したり、次期中期経営計画策定のアイデア出しをしたりなど、職員自らがビジョン達成のための経営方針を考えていく取り組みを行いました。

経験豊富な支援者から助言をもらう
スーパーバイズの取り組み。

施設ご利用者様により良く日々を過ごしていただくために、外部の知見を取り入れ、支援技術を向上させる取り組みも行っています。スーパーバイザー(助言者)である他の社会福祉法人の支援者の方に指導いただき、様々な支援方法を実践することで、ご利用者様のより豊かな生活につながった事例も多くあります。

年に一度、この支援実践の成果をご利用者様ご家族をはじめ、行政などの関係機関や福祉系教育機関、同業者などへ向け報告し、地域全体で福祉サービスの質を上げることにつながっています。

培った介護技術、ノウハウを他分野へ。

地域密着型特別養護老人ホーム「かのこ」「ほのか」では、ご入居者様へのケア方法や手順などを統一し業務遂行基準をまとめた「ほほえみ介助マニュアル」を作成。どの職員でも適切なケアができるような体制を整えています。

このマニュアルを高齢者介護以外の分野でも活かそうと、ご利用者様の高齢化により支援に介護技術が求められる部分が多くなってきた障がい福祉サービス事業所へ、ノウハウを共有する取り組みも行っています。

「来島会で活躍できる人材を」新入職員研修。

各々が学び培った経験や知識を活かし、来島会のめざすビジョン達成するために活躍してもらおうと、近年は、福祉分野を専門に学んできた学生以外にも、多方面からの学生採用も進めています。

4月に入職した新規学卒者は、入職後2か月間の研修を受講。カリキュラムに応じ、現場職員が講師となって行う講義やフィールドワーク、現場研修などを経て、それぞれの配属先で活躍していくことのできる仕組みを構築しています。

情報発信や
まわりへのはたらきかけ

広報誌などの媒体で情報発信。

地域の皆様にとってより身近な相談先となれるよう広報活動に力を入れています。その一環として、広報誌「Le bien être(ル・ビアン・エトワ)」を年4回発行しています。

テーマを「あの人に伝えたくなる情報誌」と掲げ、困難や悩みを抱える人またはその家族・友人が、この広報誌を読み解決への糸口を見つける、また「私たちの住む地域には、こんな解決方法があるよ」と誰かに教えたくなるきっかけづくりを目的としています。

また、来島会の取り組みに共感いただき、応援いただける「仲間」を増やす取り組みとして、お知らせを定期的にお送りし、たくさんの皆様からのご支援をいただいています。

発行概要
発行頻度:4・7・10・1月の15日
発行部数:10,000部
配 布 先:ご利用者様ご家族様、ご支援者様、今治市内の公立保育所・こども園、市内の私立幼稚園、愛媛・高知県内の大学や短大・専門学校等

親御様の「我が子と真正面から向き合いたい」という想いを形に。

児童発達支援センター「今治市子育て応援ステーションばんび」では、ご利用者様の親御様へ向けた「ペアレントトレーニング」を定期的に開催。お子様の特性や得意・不得意を理解すること、お子様の良い点をたくさん見つけ、褒め上手になることなどを目的に実施。その場で学びを深めるだけでなく、ご家庭で実践いただいた内容を参加者同士で共有する場も設けています。

参加した親御様からは「同じ困りごとを抱える子どもの保護者と話すことができてよかった」「褒め言葉のバリエーションが増えた」などの声をいただいています。

進行は、臨床心理士の職員が行っています。ときには心理学の視点からの話を聞くこともできる点も、魅力の一つです。

地域での障がい理解促進の取り組みも盛んに。

発達にでこぼこのある子どもたちへの地域社会での理解を促そうと、様々な働きかけを行っています。

支援員が子どもたちの集団活動の場(保育所や幼稚園など)に訪問し、環境調整などの専門的な支援を行う「保育所等訪問支援」や、市と連携し市内保育所の保育士の方々への研修会も開催。発達にでこぼこのある子どもたちの持つ感覚や目線を体験していただき、効果的なアプローチ方法などをお伝えしています。

実際に現場で使う支援グッズをご覧いただき、サポートのヒントを得ていただいています。

地域との関わり

福祉ってなんだろう?
小中学校で高齢者介護の講座開催。

地域密着型特別養護老人ホーム「かのこ」「ほのか」では、今治市内の小中学校生に向け、介護体験授業を開催しました。

職員から、ご入居者様の日々のくらしや両施設での取り組みのほか、どのような職種の人が働いているかなどを説明し、実際に施設で使用している移動用リフトや車いすなどの体験をしていただきました。体験授業をとおして、地域社会における福祉の役割を考えるきっかけづくりを実現しました。

ボランティア団体に就労生産品を提供。

地域の顔の見える関係づくりをとおして、子どもから高齢者まで地域のすべての人の孤立(孤食)をなくす・防ぐことを目的に活動する団体「鳥生地域食堂れんこん」と連携。同団体の運営する「みんなの食堂」へ、「麦の穂」の消費期限間近のパンをご提供し、低額で販売いただいています。ご利用者様が作ったパンを廃棄することなく地域の方々においしく食べていただく仕組みを構築しました。毎回、早々に売り切れるほど大好評です。

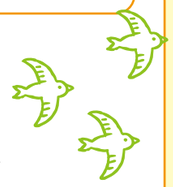
数字で見る来島会

私たちは、違いによる区別をなくし、お互いに尊重し認め合えるコミュニティを実現するべく様々な取り組みをしています。
2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日）に来島会で行いました取り組みを象徴する数字を集めました。

社会へ飛び立ったご利用者様

就労移行支援事業を利用し、一般企業へ就職した方

3人



就職後もご本人や企業との面談などのサポートを継続的に行い、2023年3月31日現在の定着率は100%!

ボランティアとして関わっていただいた方

133人　合計52日間

「福祉の仕事を体験してみたい」という学生の方や、「イベントのお手伝いがしたい」という主婦の方まで…幅広い年齢層の方に関わっていただけました。

来島会の施設を利用いただいたご利用者様

755人

来島会へ業務を委託いただいた企業

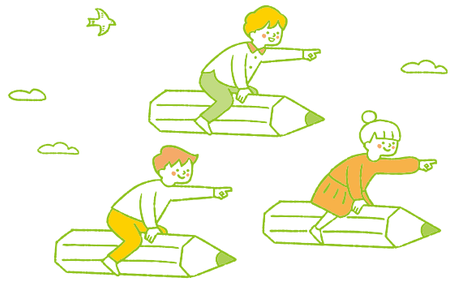
20社

障害のある方の特性や個性を活かした業務を発注いただいています。

施設への実習受け入れ

30人　合計371日間

実習をとおし、福祉の道を志す学生の皆様の選択肢を切り開くことができました。



地域の皆様へ向けた講演会、ワークショップなどのイベント

7回開催

116人参加

困りごと、悩みごとを抱える方へ解決の糸口を見つけていただいたり、普段の生活に取り入れやすいヒントを得ていただいたりしました。

来島会に新たに入職した職員

62人

（うち、2022年度新規学卒者7人）

来島会の業務内容や取り組みに共感いただき「はたらきたい!」と入職した仲間が増えました。

来島会ではたらく職員（2023年3月31日現在）

384人

（嘱託職員・パート含む）

来島会の事業（2023年3月31日現在）

52事業

決算報告

●資金収支計算書

（自）2022年4月1日 （至）2023年3月31日　（単位：円）

勘定科目	勘定科目	合計
事業活動による収支	収入	1,981,737,214 うち経常経費寄附金収入 19,231,000
	支出	1,950,869,071
	収支差額	30,868,143
施設整備による収支	収入	201,683,309
	支出	292,162,107
	収支差額	▲ 90,478,798
その他の活動による収支	収入	3,182,744
	支出	58,206,397
	収支差額	▲ 55,023,653
当期資金収支差額合計		▲ 114,634,308
前期末支払資金残高		672,475,220
当期末支払資金残高		557,840,912

●事業活動収支計算書

（自）2022年4月1日 （至）2023年3月31日　（単位：円）

勘定科目	勘定科目	合計
サービス活動増減の部	収益	1,974,807,580 うち経常経費寄附金収益 19,231,000
	費用	2,034,754,257
	増減差額	▲ 59,946,677
サービス活動外増減の部	収益	6,929,636
	費用	14,314,199
	増減差額	▲ 7,384,563
経常増減差額		▲ 67,331,240
特別増減の部	収益	1,571,239
	費用	1,477,754
	増減差額	93,485
税引前当期活動増減差額		▲ 67,237,755
法人税、住民税及び事業税		0
法人税調整額		0
当期活動増減差額		▲ 67,237,755
前期繰越活動増減差額		1,286,900,381
当期末繰越活動増減差額		1,219,662,626
基本金取崩額		0
その他の積立金取崩額		534,993
その他の積立金積立額		43,673,900
次期繰越活動収支差額		1,176,523,719

●貸借対照表

2023年3月31日現在　（単位：円）

勘定科目	当年度末
資産の部	
流動資産	661,810,654
固定資産	3,256,193,705
基本財産	2,108,336,063
その他の固定資産	1,147,857,642
資産の部合計	3,918,004,359
負債の部	
流動負債	332,234,267
固定負債	962,410,015
負債の部合計	1,294,644,282
純資産の部	
基本金	132,224,681
国庫補助金等特別積立金	861,403,485
その他の積立金	453,208,192
次期繰越活動増減差額	1,176,523,719
純資産の部合計	2,623,360,077
負債及び純資産の部合計	3,918,004,359

ご寄付の内訳

2022年度は301件、19,231,000円のご寄付をいただきました。
皆様からのご支援に感謝申し上げます。

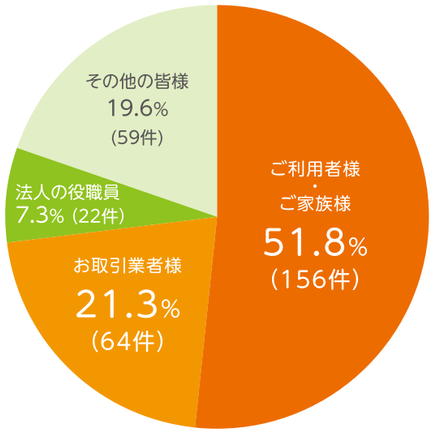
●ご寄付いただいた先

来島会の活動全般へのご寄付 …… 208件
特定の施設へのご寄付 …… 93件

●ご寄付の種類

個人からのご寄付（単発） …… 223件
個人からのご寄付（マンスリー） …… 43件
法人・団体からのご寄付 …… 34件
相続財産からのご寄付 …… 1件

●ご寄付いただいた方の来島会との関係性



これからの来島会

一人ひとりの違いを尊重し認めあえる社会に向けて

2022年度、私たち来島会が目指すインクルーシブな社会とはどんなものであるか、どうすればそれを実現できるかを自問自答しながら、またご支援いただく皆様のお力添えを賜りながら、様々な試行錯誤を続けてきました。これによりインクルーシブな地域社会へ着実に歩みを進められたと確信しております。

2023年度はこの模索をさらに進め、より多くの皆様とともに、あらゆる人にとって豊かで幸せな社会の実現に向け、歩みを進めていきたいと想いを強くしております。現時点で取り組み始めていることを少しご紹介申し上げます。

障がいの有無にかかわらず自分らしく輝ける社会をつくりたい

●施設を利用いただく方の自己実現に向けたサービスの向上

施設をご利用いただく方の自己実現のため、一方的に支援するのではなく、ご自身の発揮できる力をのばし、社会参加のチャンスを増やし、社会での役割が獲得されるようサービスを変革します。

●無料職業紹介所わーすまいるの立ち上げ

来島会のもつ障がい支援のノウハウを活かし、障がいのある方の一般就労機会を一層拡大できるよう、障がいのある方に対象を絞った無料職業紹介所わーすまいる（無料職業紹介事業許可番号38-ム-300016）を開設します。

来島会の培った知識やノウハウを社会へ伝えていきたい

●コンサルテーション事業の立ち上げ

来島会が長年培ってきた障がい支援、特に強度行動障害と呼ばれる専門的な支援が必要な方に対する支援技術を、他法人の障がい支援施設などへ伝達し、社会全体の障がい支援技術を向上させるべくコンサルテーション事業を立ち上げます。

●幼稚園、保育所、各種学校等との連携の強化

子どもたちの集団生活の場でのインクルーシブ教育の実現に向けて、保育所等訪問をはじめとする事業だけでなく、教職員の皆様向けのセミナーの開催などを協働して行い、連携を強化します。

インクルーシブを体験いただき、社会へその輪を広げたい

●今治里山スタジアム内「複合福祉施設コミュニティビレッジきとなる」

今治市をホームタウンとするJリーグクラブ「FC今治」のホームスタジアム「今治里山スタジアム」内に、新たな施設「複合福祉施設コミュニティビレッジきとなる」を開設します。ここでは利用いただく方への支援を行うだけではなく、利用いただく方、スタジアムを訪れた方などが自然に関わり合いをもつ場づくりにより、インクルーシブな環境を体験する機会を創出します。

●有志職員主導でのプロジェクト「なかプロ」

来島会が目指すインクルーシブ社会をどのように多くの人に共感いただき、その実現に参画いただくかが、いま来島会の抱える大きな課題です。この課題解決の取り組み模索を、複数の施設を横断する有志の職員で行うプロジェクト「なかプロ」を立ち上げます。

MAP

社会福祉法人来島会
事業所マップ

愛媛県今治市の事業所

■障害福祉サービス

- 障害者支援施設 今治福祉園 …… 今治市宮ヶ崎甲170番地
- 共同生活援助事業所 カラコリーナ …… 今治市唐子台東三丁目7番地2 他
- 就労継続支援B型事業所 今治ワークス …… 今治市宮ヶ崎甲166番地
- エンゼル21（今治ワークス従たる事業所） …… 今治市波方町樋口甲109番1号
- 多機能型事業所 ふきあげワークス …… 今治市恵美須町三丁目1番地16
- 多機能型事業所 ステップ …… 今治市玉川町別所甲32番地1
- 多機能型事業所 麦の穂 …… 今治市衣干二丁目144番地3
- 生活介護事業所 ふらっぷ …… 今治市登畑甲345番地1
- 居宅介護・重度訪問介護 行動援護・移動支援 ホームヘルプ事業部 凜 …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 地域活動支援センター こぱん …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 相談支援事業所 相談支援センター アゼリア …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 多機能型事業所 ジョブサポートセンター ここすた …… 今治市高橋ふれあいの丘1番地3

■児童福祉サービス

- 児童発達支援センター 今治市子育て応援ステーション ばんび …… 今治市宮ヶ崎甲690番地1
- 放課後等デイサービス なかよし学童くらぶ …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 放課後等デイサービス 保育所等訪問支援 らびっつ …… 今治市高橋ふれあいの丘3-1

■高齢福祉サービス

- 地域密着型特別養護老人ホーム かのこ …… 今治市宮ヶ崎甲700番地1
- 地域密着型特別養護老人ホーム ほのか …… 今治市高部甲535番地1

■その他委託事業

- 今治圏域障害者就業・生活支援センター あみ …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 今治市障がい者文化体育施設 サン・アビリティーズ今治 …… 今治市喜田村二丁目1番10号

■その他

- 法人本部事務局 …… 今治市北宝来町二丁目2番地12
- 来島ふれあい だんだんファーム …… 今治市高市甲161番地3
- 古民家交流スペース DANDAN BASE …… 今治市高市甲161番地3

高知県南国市の事業所

■障害福祉サービス

- 障害者支援施設 南海学園 …… 南国市大そね乙2288番地
- 相談支援事業所 相談支援センター びぃーず …… 南国市大そね乙2288番地
- 共同生活援助事業所 かるむ …… 南国市大そね乙2288番地

■児童福祉サービス

- 福祉型障害児入所施設 南海学園 …… 南国市大そね乙2288番地
- 児童発達支援センター やいろ …… 南国市大そね乙2288番地

■その他

- 避難スペース ばすけっと …… 南国市大そね乙2288番地

法人概要（2023年8月31日現在）

名称
社会福祉法人 来島会

所在地
〒794-0028
愛媛県今治市北宝来町二丁目2番地12

事業内容
第一種・第二種社会福祉事業（障害福祉サービス、児童福祉サービス、高齢福祉サービス）その他委託事業

役員等

理事長	越智 清仁
業務執行理事	越智 人史
理事	住村 亮次
理事	石丸 元治
理事	杉山 裕二
理事	三幡 大輔
監事	浮穴 和子
監事	長野 千津美
評議員	白石 久美子
評議員	秋友 英稔
評議員	青野 鬼一郎
評議員	近藤 稔
評議員	越智 容子
評議員	藤髙 亮
評議員	秋山 佳子

資格保有者数

介護福祉士	120人
社会福祉士	32人
精神保健福祉士	10人
保育士	63人
看護師	13人
准看護師	12人
理学療法士	1人
作業療法士	2人
言語聴覚士	2人
公認心理士	2人
臨床心理士	1人

ご寄付のお願い

皆様のお力と関わりで、誰もが生きやすい社会になります。

皆様の善意によるご寄付は、さらなる福祉サービスの発展・充実や、多様性を受容し、
一人ひとりの個性を活かすことのできる社会に変えていくため、
私たちが取り組む様々な事業に活かしていきたいと考えています。
私たち来島会のビジョン・ミッションや、事業に共感していただける
個人、法人、団体の皆様からのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

ご寄付の方法

webサイトからクレジットカード、コンビニ払い、銀行振込、ペイジーでご寄付いただけます。
1回の単発寄付や、毎月定額をご寄付いただくマンスリー寄付をご用意しております。

◀ https://www.kurushimakai.jp/donate.html

来島会　寄付

※ご寄付に関するお問い合わせにつきましては、下記の法人本部事務局までお願いいたします。

いまばり
バリィさん®

バリィさんも
応援しとるけん

社会福祉法人
来島会
KURUSHIMA-KAI

法人本部事務局
〒794-0028 愛媛県今治市北宝来町二丁目2番地12
チャレンジドサポートセンター3階
TEL:0898-32-0700　FAX:0898-32-0701
Mail:contact@kurushimakai.or.jp
https://www.kurushimakai.jp/▶

印刷:第一印刷株式会社